

「上司は未熟でも部下には厳しくせよ！」

上司が「鬼」とならねば部下は動かず

「自分に厳しく部下にも厳しい」は上司としてNG

部下がみな意欲的に仕事に取り組み、高い成果をあげる部門の上司とはどんな人か。

上司の対応はつぎの4つに分けられる。(1) 自分に寛大、部下にも寛大。(2) 自分に寛大、部下には厳格。(3) 自分に厳格、部下には寛大。(4) 自分に厳格、部下にも厳格。

道徳では「自分に厳しく、他人には寛大に」と教える。求道的人格者型とでも言おうか。つねに自分を厳しく律していく。模範となる立派な人である。

このタイプにも欠点がある。自分が過ちを犯すまいと努力する。人のふり見てわがふり直すのはうまい。そのかわり、人の過ちをとがめることができない。他人がすべてこの人のように、人のふり見て反省する人ならいいが、言わなければわからない人、叱らなければ直らない人、罰しなければ身にしみない人いろいろおり、こうした人々に対して無力である。組織のリーダーとしては問題である。

人は誰でも他人からよく思われたい。嫌われたくない。好かれたい。支持されたい。愛されたい。この社会的欲求は女性や若い人ほど強いようだが、大人の男も弱くはない。

寛大であれば、人から好かれる。親も学校も「人には親切に」「相手の立場を尊重して」「友人を大切に」と教える。

社長の中には性格が温厚な人が少なくない。その会社は規律にルーズで、全体にだらけてしまっているといったケースがある。マキャベリは『君主論』の中で、ハンニバルとスキピオという対照的な2人の将軍を例に、これを説いている。人に寛大なスキピオは、兵士の勝手気ままを許し敗れた。非人道的で残酷なハンニバルの軍は、兵の乱れなく指揮官への反抗もなく常勝の軍隊であった。

上司として1番優れているのは、(4)「自分に厳格、部下にも厳格」であろう。しかし人の行為に絶対はない。たとえば、上司が寝坊して遅刻をしたとする。この上司は部下の遅刻を叱れなくなる。(1)「自分に寛大、部下にも寛大」になってしまう。したがって、上司は「自分に厳しく、部下にも厳しく」をモットーにしてはならない。

自分が未熟でも部下には厳しくあれ

優秀な上司は、(2)の「自分に寛大、部下には厳格」に行動する人である。

この上司が部下の非をとがめれば、「自分だって同じ過ちを犯しているくせに」と部下の反発を買う。その反発が怖くて部下に寛大になってしまう。

部下の反発に屈してはならない。「納得がいかない」と非難されるかもしれないが、それに負けることなく叱らなければならない。そうしなければ、組織のリーダーとしての責任が果たせない。自分に寛大な上司は欠点を上級上司から指弾される。

東北から元気発進！！ワクワク"夢実現"プロジェクト

部下からとやかく言われる筋合いはない。自分一人がいくら完璧であっても部下を統率できないなら、この上司は劣等である。「自分に厳しく」は道徳としては素晴らしいが、上に立つ人の条件にはならない。たとえ自分にはどうであれ人に対して厳しく、これが人を動かす条件である。

ただし、部下の指導育成は上司の任務である。指導は模範を示して、「私と同じにやってみよ」が手っ取り早いし効果がある。自分に寛大な上司は模範を示すことができない。それどころか、嫌われ軽蔑されてしまう恐れがある。

こうした事態を予想したうえで「にもかわらず」「厳しく」で行く。部下には言うべきは言い、叱るべきは叱るのである。指導育成という上司の任務を放棄するのは最悪である。

上司は人間性を高めなければならない。己を厳しく律しなければならない。当然その努力はする。だが、優れた人間性を身につけるまで、部下の指導育成をしなくていいことにはならない。未熟であっても上司としての任務は果たさなければならないのである。

※本連載は書籍『ザ・鬼上司！【ストーリーで読む】上司が「鬼」とならねば部下は動かず』（染谷和巳 著）からの抜粋です。
PRESIDENT Online より

思わず涙する感動秘話

【ものごとに動じないために】

1. 苦手な人と向き合うときは、最初から、あまり期待しない。全員とうまくやっていける人なんか、いるわけがない。
2. そこまで他人の目を気にする必要はない。人はあなたが思うほど、他人のことなど気にしていない。
3. 友達はたくさんいるほうがよい、という幻想から卒業する。知り合いの数が人間関係のスキルを物語るわけではない。
4. みんなと同じように振る舞うことに、とらわれすぎていないか。だからといって、奇をてらうのではなく、信念を持つことが大事。
5. 逃げのウソをつく、疲れるだけ。ありのままの自分であるほうが、ゆとりある対応ができる。
6. ひとりで過ごす贅沢な時間を味わう。大切な答えは、ひとりの時間に見つかることが多い。
7. ひとりでいられないのは、心のどこかに不安があるから。ひとりで心細い、と思うから心細くなる。
8. 重い、面倒な人間関係を、避けすぎていないか。軽さ、楽しさだけを求めている、いい人間関係はつれない。
9. つねにポジティブ、ポジティブと自分にプレッシャーをかけていないか。がんばれ、より、ドンマイのほうが心に染みるときがある。
10. 自分のいいところだけ数えあげ、思い切り甘い点をつけてあげよう。世の中は十分厳しい。そのうえ、自分には、厳しくではつらすぎる。

簡単おつまみ「真夜中の4分クッキング」

今話題のにぎらないおにぎり、『おにぎらず』。大きく作って半分に切るだけなので、おおざっぱさんにも安心です。おにぎりとは違って具がたくさん入るのでヘルシーなのがうれしいですね。

おにぎらず（ツナサラダ）

【材料（1人分）】

焼き海苔…1枚 ご飯…お茶碗大盛り1杯分 人参…20g
マヨネーズツナ…おおさじ2 レタス…1枚分 塩…適量

【作り方】



焼き海苔に塩をまぶし、ご飯を2/3量楕円形に乗せます。



包むようにして角を中心に寄せます。



レタス、人参、ツナを乗せます。



全体に形を整えたらラップでくるみます



残りのご飯を乗せて塩を振ります。



ラップのまま半分に切って完成です。

東北から元気発進！！ワクワク"夢実現"プロジェクト